

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072100284		
法人名	株式会社 山田檜木郷		
事業所名	グループホームやまだ桜の郷 あやめ荘		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地1		
自己評価作成日	令和5年1月30日	評価結果確定日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「人としての尊厳」を守る。②入居者様それぞれの生活歴に合わせたライフスタイルを尊重する。③「楽しく生きること」ができるよう支援していく。④家庭的で温かい雰囲気を作り、生活の質を高めていく。⑤入居者様に生きがいを感じて頂けるよう努めていく。(以上運営理念より)。特に利用者には、安全・安心・安らぎを提供していくとともに、職員も自己のスキルアップを目指し、働きやすい施設環境を目指している。また、地域とのつながりを大切に、保育園、小学校、中学校等との交流や桜の郷が主催するイベントへのご参加、地域医療との連携を図り、地域に信頼して頂ける施設作りに努めている。さらには、併設のデイサービスに、機能訓練器具やカラオケ機器もあり、機能維持・継続や娯楽などにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット会議で理念を共有し、日々実践できているかを振り返り、入居者が自分のペースで生活できるように支援している。日々の関わりで把握した思いを全職員で共有し、家族の協力や入居者間の関係づくりで、本を読むのが好き、月に2回髪を染めたい、折り鶴が大好きなどの思いを支援しているが、102歳や100歳の方々の元気で生き生きした姿から、日々の実践が伺える。恒例のクリスマスイルミネーションは近隣にも好評で、昨年3年ぶりに開催されたクリスマス会は多数の家族の参加やボランティアの踊りなどで賑わい、102歳や100歳の方々に敬老のお祝いを手渡している。施設総動員で乗り越えたクラスターは貴重な経験となり、運営推進会議再開に際し、地域代表やご家族の参加をお願いし、災害時に地域の避難所として活用できるように行政や地域と連携していきたいと管理者は話している。今後も入居者の尊厳を守っていくことを第一と捉えた理念の具現化で、地域に密着したサービスの展開が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホームやまだ桜の郷 あやめ荘**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」及び「運営理念」を所内数か所に掲示し、職員等は、日常の業務において常に目にする環境にある。さらには、管理者は職員に対し、その時々において、「理念」及び「運営理念」を振り返り、その共有に努めている。	ユニット会議で理念を共有し、日々実践できているかを振り返っている。入居者一人ひとりの尊厳を大切に、言葉遣いなどに配慮した支援に努め、入居者が自分のペースで生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ拡大防止のため、敬老会等の通常行ってきた交流会や個人的な面会、慰問等は中止してきたが、本年度12月に久々に「クリスマス会」を開催し、地域の方やご家族を招待し交流できた。また屋外のイルミネーションは本年度も地域の方々には好評であった。	恒例のクリスマスイルミネーションは近隣でも好評で、昨年3年ぶりに開催されたクリスマス会は多数の家族の参加やボランティアの踊りなどで賑わい、102歳や100歳の方々に敬老のお祝いを手渡している。定期的な近隣パン屋の出張販売も楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に実施していないが、日常において、施設見学や施設パンフレットを希望される方があり、また電話等での問い合わせには、そのつど、認知症の方への理解や支援の方法を示させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度もコロナ感染拡大防止のために書面開催し、施設からの行事や現状報告、今後の計画を説明すると共に、ご家族からの要望や質問、意見を頂いており、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は3年間職員のみで開催し、入居や行事などを市や地域包括支援センターに報告しているが、特段の意見はない。家族には会議開催を通知し、訪問時や電話等でご意見を伺っている。会議録は事務室前で公表している。	会議再開に際し、地域代表やご家族に、運営推進会議の設置目的を改めて説明され、参加や意見の表出をお願いされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常において、行政担当者には、施設実績、また入退居者について、コロナワクチン等の医療やケアサービスや医療保険についてなど、連絡を密に取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターから入居の相談があり、面接予定である。市に新型コロナウイルスのクラスター発生を報告し、ガウンなど感染対策グッズの配付を受けるなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は職員に対して、「身体拘束」とは何かを具体的行為を示し、熟知させようと努めている。しかし、転倒防止の危険性が高い方の居室内にはセンサーを取り付けており、また、居室窓の開閉の制限はしている。しかし、玄関、中庭への通用窓は開放している。	年間研修計画に身体拘束に関する研修を組み入れ、ユニット会議で身体拘束適正化委員会を開催し、適正化に努めている。玄関は施錠せず、家族の了承を得て使用しているセンサーを話し合いの結果、取り外した方もある。新規入職者もあるため、言葉による拘束などの理解に努めたいと管理者は話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に対して、「虐待行為」と「虐待につながる行為」とは何かを具体的例を示し、熟知させようと努めている。日ごろの業務内で、微かにでも、そのような行為が見受けられた場合には、徹底してその意識改革を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、関連する資料を利用し、理解し、それらの事業や制度を活用できるよう努めている。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はない。研修で、資料を参考に事業や制度の違いや内容などの理解に努めたいと、管理者は話している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の前には、グループホームでの生活内容や費用の面など丁寧に細かく説明し、また利用者側からの要望や不安なども真摯に聞き入れ、納得、理解を頂いている。また改定等の際にもご理解頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日頃より要望等を職員に伝えている。ご家族からは、行事や日常的な面会の際に、意見や質問、要望をお聞きしており、また電話でもご意見等をお聞きしている。それらは、代表者や管理者に伝えられ、運営に反映している。	面会を制限している現状から、「歩行が悪くても歩かせてほしい」などの要望の電話を頻回にいただいたり、「いつから会えるのか」などの意見が寄せられている。職員は丁寧な聞き取りや対応に努めている。	電話だけでなくホーム便りなどの様々な媒体で、ホームの現況や個々の暮らしぶりを詳細に報告したり、行事などの家族に参加をお願いする機会を設け、更なる意見交換を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、日常において、その意見や提案を管理者に述べる環境にあり、管理者はその都度、意見を聞いている。その内容は職員間で共有し、内容によっては、代表者との直接面談等の機会も設けられている。	月1回のユニット会議は日勤終了後に1時間程度で開催され、勤務扱いとなっている。入居者の変化や気づきなど、率直な意見交換が行われている。日頃気になることや足りないものなどは、管理者に直接伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、社会的給与水準や労働時間等を勘案しつつ、職員個々の努力や実績、勤務状況に基づき、労働環境や処遇の改善に努め、職員からの意見や相談があれば、面談を行なうなど、職員のモチベーション向上に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当法人の職員の募集、採用に当たっては応募者の意欲を第一としており、性別や年齢等を理由に採用から排除していない。現職員についても、女性が多いが20代～70代が従事している。また、できるだけ職員の意見を取り入れ、職員が前向きに生き生きと勤務でき、自己実現ができるよう配慮している。	50、60代を中心に20代から70代の職員が、食事作り専門や日勤のみ、夜間専従、外国籍の職員や子育て中の職員もあり、個々の状況に応じて勤務している。新人研修を終えて先輩職員からケアを学んだり、希望休が叶うなど、働きやすい環境を整えている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「運営理念」中、「人としての尊厳を守」っていくことを第一と捉え、身体拘束や虐待について話し合う場を設け、ミーティング時やその場に応じて「人権尊重」の啓発に取り組んでいる。	年間研修計画に人権研修を組み入れ、日頃も理念の振り返りなどで、入居者の尊厳を守ることを意識づけしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの能力を高めるため、ミーティング時に、そうした資料を配布したり、資格取得に向けた情報提供などを進め、また、施設外研修においては、その情報を知らせ、参加の機会が持てるよう促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はコロナ禍の影響により実施できていない。今後は、CM連絡会、地域密着型サービス連絡会等に参加し、多職種や他事業所との連携、交流を図りたい。また、得た情報は職員間で共有し、サービス向上を図っていく。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の信頼関係づくりは最重要課題であり、利用者の不安や要望には、些細な事柄にも丁寧な耳を傾け、安心して過ごしてもらえるよう取り組んでいる。同時に、ご家族からも利用者の性格や健康状態、日常のルーティンをお聞きし、利用者の不安解消に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の信頼関係づくりは最重要と位置づけ、ご家族の不安や要望には、些細な事柄にも丁寧に耳を傾け、また、ご意見や要望があれば、いつでも申し出てほしい旨を伝え、利用者が安心して過ごしてもらえるよう取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用契約までの流れの中で、利用者にとって更に有益な介護の在り方を念頭に置き、ご本人様とご家族が今一番必要としている支援を模索しつつ、関係医療機関や他事業所との連携を図り、必要に即した支援対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していくという姿勢を大切に、利用者には、時に利用者が「できる事」「やりたい事」「やりたいが、させられない事」等を見極めながら、できる範囲で家事の一部をお願いしつつ、職員は必ずお礼を述べるよう取り組んでいる。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、ご家族が参加しての支援等はできないが、電話などで、少なくとも2か月に1度ほどは連絡を取り、利用者の現状報告や必要な品のお願い、また本人に電話をかわるなどして、共に支えていく関係の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人からの連絡(電話や手紙)は、すぐに取り次ぎ、また、利用者本人からの電話をかけたい等の要望があれば、内容をお聞きし、要望に応えるべく、その関係が途絶えないよう支援している。	感染対策で外部の方と触れ合う機会が少ない中、定期的に訪れる訪問理美容師や移動販売のパン屋さんなどと馴染みになり、お弟子さんと手紙のやり取り、友人や家族との電話などの継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日頃よりレクリエーションを楽しんでおられ、その際には、全員参加を基本とし、職員は一人が孤立しないよう配慮している。また家事の手伝いをお願いする際にも、利用者同士が関わり合えるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用(契約)が終了する際には、今後のための情報提供し、以後も、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりには、これまでの暮らし方や生活意向があり、さらに、趣味や嗜好は個人差があるため、できるだけご本人の希望に柔軟に対応するよう努め、職員間で情報共有をしている。	日々の関わりで把握した思いを全職員で共有し、家族の協力や入居者間の関係づくりで、本を読むのが好き、月に2回髪を染めたい、折り鶴が大好きなどの思いを支援している。職員の言葉かけにどのような表情をされるかを共有し、表出できない思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族から、これまでの生活歴や意向を聞き取り、アセスメントシートを作成し、その把握と職員間での情報共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、看護記録に利用者個々の心身状態や他者との関係等の状況を記録、あるいは職員が気づいたことなどを申し送りノートに記入して、状態の変化などに留意している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者は管理者、職員の意見やアイデアを聞き取り、さらにはご本人やそのご家族、また医療関係者と連携を密に取り、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成プロセスに沿った介護計画を作成し、モニタリング結果をサービス担当者会議で話し合い、自分らしく穏やかな暮らしを支援している。申し送りノートで介護計画の変更を全職員で共有し、102歳、100歳の方々も、元気で毎日を生きて過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、看護記録に利用者個々の心身状態や他者との関係等の状況を記録、あるいは職員が気づいたことなどを申し送りノートに記入して、状態の変化などに留意しつつ、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に応じて、併設しているデイサービスの器具や機器を使用し、身体機能訓練やカラオケなどのレクリエーションを実施し、柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、花見やドライブは出来ていないが、施設外周の桜や紅葉を楽しんだりしている。また、市からの振興券等で、個別に買い物も出来ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関からの訪問診療が月2回(歯科は4回)実施されており、またご本人やご家族がその他の医療機関を希望される場合には、その都度、職員が同行し受診している。	訪問診療や訪問歯科診療を支援し、看護職員の健康管理や訪問看護師による健康チェックや看護記録を全員で共有し、異常の早期発見に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	職員は日常で気付いた利用者の状態の変化を、施設の看護職員や訪問看護師に情報を伝え、早期受診や適切な医療を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、医療機関やご家族と連絡を密に取り、ご本人の状態を把握すると共に、早期退院ができるよう情報交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、施設でできること、できないこと等を、入居時にご本人とご家族に十分に説明しており、緊急時には協力医療機関に24時間体制での連絡が可能であり、対応してもらっている。	入居契約時に、ホームでできる事やできないことを説明している。食事摂取量などの低下や、全身状態の悪化などが見られる場合、医師から家族に連絡するよう指示があり、その後の過ごし方や医療機関への搬送時期が話し合われている。これまで看取りはない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導により、利用者の急変や事故発生時取るべき介護員の応急処置や対応のあり方など、実践力を身につけるべく努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、年2回の防火避難訓練を実施しており、避難経路の確認や災害時の初期対応について訓練している。また、避難場所に地域の公共施設の使用も可能となっている。	年2回、施設内デイサービスと合同で避難訓練を実施している。1回は夜間想定で、通報、水消火器による消火訓練を行っている。今月末にAEDの研修を予定している。今後は、災害時に地域の避難所として活用できるように行政や地域と連携していく予定である。	施設総動員でクラスターを乗り越えた貴重な経験を活かし、持ち出し書面や備蓄台帳について話し合い、自然災害を含めた業継続計画の作成を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は全職員に対し、利用者への、人間の尊厳や誇りを損なう言葉や態度が絶対にならないよう指導しており、利用者が最も居心地よく過ごせる環境の整備に取り組んでいる。	人としての尊厳を守っていくことを理念の第一と捉え、名字で呼称し入居者同士の関係に配慮した声かけをしている。洗濯物干しや洗濯物を畳むなどできることをお願いしたり、夫々穏やかに毎日を生き生きと過ごせるように支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさまざまな場面で、利用者の表情や態度に気づき、その上で、ご本人が「何をどうしたいのか」「何を思っているのか」等を遠慮なくいい旨を伝えつつ、丁寧に聞き取り、できる限り意に添うよう対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の一日のスケジュールを崩さない範囲で、毎朝のあいさつの後、全員にレクリエーション等で今日は何がしたいかをお聞きし、また個別にも、可能であれば、その希望に添うように取り組んでいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常においては毎朝、洗顔の後、整髪と乳液等で身だしなみを整え、衣類は、自分で良いものを着てこられたり、選んで頂いたりしている。髪染めをされる方にも入浴時に対応し、またヘアカット出張サービスは定期的に受けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立をリビングに掲示し、そのおかず等について楽しみな食事となるよう話しかけ、また、何が食べたいかなどもお聞きし、「では近いうちにそれを作ろう」などと、食べることに意欲を持って頂けるよう働きかけている。	施設の厨房で、入居者希望の親子丼などが調理され、刻みやミキサー食など、入居者の嚙下や咀嚼に合わせて提供している。夫々のペースでの完食が多い。自ら茶わん洗いやお盆拭きを手伝われる方もあり、感謝の言葉で労っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りがないよう、肉や野菜などバランスよく提供している。また食物と水分の摂取量を記録し、一人一人の状態が把握できるよう努め、また血液検査での結果を医師から指導頂き、改善できるよう努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々で口腔ケアを行い、本人の力に応じて口腔介助を行っている。また週に1回の歯科往診により、さらなる口腔ケアと指導を頂いている。なお夕食後からは翌朝まで、義歯洗浄を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、失禁のある利用者には、記録を見ながら細目に声かけをし、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄が自立されている方もあり、誘導や車椅子など入居者に応じた支援で、パット交換やトイレでの排泄を支援している。夜間のみ、パット交換やポータブルトイレを使用を支援する入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を細目に行い、摂取量をフローシートに記録し、足りない利用者には摂取を促している。また適度な運動も実施し、排便が確認されない利用者には医師に相談し、服薬等の処置を施している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日実施したいが、現在は週に2~3回の入浴を計画的に実施しており、それ以外の日に入浴を希望される方は今のところおられない。しかし、希望があれば、夜間以外はいつでも入浴できる環境にあり、できるだけ希望に添えるようにしている。	週2、3回を目途に、入浴を支援している。車椅子の入居者を2名体制で介助したり、最初からシャワー浴希望もあり、入浴を楽しめるように支援している。入浴を億劫がられる場合は、声かけを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は、食事やおやつ、体操などはリビングで行うが、それ以外は、自由に自室に帰って休息を取られている。居室は温度管理ができており、安心して眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的や用法を理解するように努めており、解らない場合は、医師や看護師に指導して頂いている。また看護記録に服薬の内容を記録しており、職員やご家族はいつでも閲覧できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(おりがみや脳トレ、歌、読書、お笑いのビデオ鑑賞、散歩等々)のある方には、それを支援し、家事(皿拭きや衣類たたみ)などのお手伝いを志向される方には、職員と会話を楽しみながら手伝って頂き、気分転換等の支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、希望をお聞きし、2～3人ずつ(車椅子の方も含む)、施設周辺や中庭を散歩している。また、普段は行けないような場所へは、コロナ禍で実現できていないが、市からの振興券等で、個別に買い物などでもできるよう支援している。	コロナ禍の中で、外出は自粛しているが、広い敷地に梅や桜など、園庭を散歩することで季節の移り変わりや木々の花などを楽しむことができる。豆まきの豆を食べに来たタヌキの姿もあった。感染が収束した折には、花見に行きたいの声も上がり、ドライブや外出が企画されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は予備費(現金)をそれぞれ持たれているが、事務所で預かりしている。しかし、ご本人やご家族の希望があれば、すぐにお渡しできる用意はしており、現金の管理能力の有無を見据えつつ、判断している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙での知人とのやり取りは大切な支援と捉えており、電話は、その頻度や時間帯を考慮しつつ、いつでも使用して頂いている。また便せんやハガキも準備している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は、整理整頓を心掛け、とくに玄関やリビングには花を飾ったり、創作画(張り絵)などを施している。不快感を感じないよう、外窓も広くとっており四季の景色を見る事ができ、また日光もよく射している。トイレの匂いは、換気やスプレー等をうまく利用している。	リビングの広い窓からは陽光がまぶしく遮光カーテンがかけられるほどで、空気清浄機が設置され、室温、換気を管理している。清掃が行き届き、壁には入居者作成の貼り絵などの作品が飾られ、温かな雰囲気である。廊下も車椅子が交差できる程ゆとりのある広さで、天窓からの明かりが射している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は、基本的に一日の多くをリビングで過ごされており、自分の席を中心に、気の合った方々と会話を楽しまれ、それに飽きると、自室に戻ってゆっくり休息をとられており、思い思いに過ごせるような居場所を工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、入居時に家族と本人が、ダンスやテーブル、鏡台、仏壇等、使い慣れたものや好みのものを持って来られ、思い思いのレイアウトを施され、居心地のよい空間を作られている。	職員たちの手作りの可愛い名札が入口に掛けられ、引き戸を開けると窓からの明かりが射している。大きなクローゼットや押入れが整理され、テーブルや椅子を自宅から持ち込み、お気に入りの本や雑誌を読んだり、ぬいぐるみや絵画、仏壇などが置かれ、自宅と同じような暮らしの継続を支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用する場所や物には、自分の氏名も含め、分かりやすく表示や掲示をしている。同時に、「できるが、させられないこと」も見極めながら、安全かつ自立した生活が送れるように支援している。		